

東九州支部報

第88号

公益社団法人日本山岳会東九州支部 2020年1月25日(土)発行



	Ł	くじ
1. 支部活動		私の無名山ガイドブック(No, 75) 13
忘年登山 傾山·天神原山	2	安全登山セミナーに参加して 14
宮崎ウエストン祭・大障子岩	3	3. 支部からの報告
御前岳・釈迦ヶ岳(11月月例山行)	4	支部連絡会議・年次晩餐会報告 15
登山教室 第3回実践講座 津波戸山	5	晩餐会記念山行報告・三ツ峠山 16
研修山行 由布岳·観音岩	6	指定寄付金の報告 17
2. 個人投稿		4, お知らせコーナー
ペンリレー(第35回)	7	月例山行 18
より安全な山登りのために(No, 35)	8	支部会議報告 19
三角点と山城探検シリーズ(NO1)	9	各種募集・案内 19
中国山地の山旅	11	後記 20

12 月月例山行 忘年登山

傾山・天神原山

久保洋 -(14168)

12月21日真暗な中、AM5:20 長野さんと 戸次へ向かった。少し早く到着した。

寒い中しばらく待っていると飯田修三さんが来られた。そして飯田さんと携帯電話で先のコンビニで待ち合わせをし合流、出発。上小野市でトイレ休憩、その後、唄げんかの湯で待っている人達がいたので、そこで車を停めて後続車を待った。全員が揃ったところで事務長、支部長の挨拶があり人数を確認して出発。

今年も重廣さんが来られている、ありがとうございます。杉ケ越を越え「とやんたき」を右手に見ながら下って行く。見立水無のあけぼの 荘手前 500m 地点から右折して、大部分未舗装の黒仁田林道を車で40分程入り込み見立谷橋を渡った先が登山者の駐車場である。ここからは歩きだ。前回このルートを登ったのは大雪のときでこの駐車場からすぐ川を渡り、たかはた山に直登し、吹雪の中ひたすら祖母-傾の縦走路へ向けて歩いたのを思い出す。20cm 以上の積雪があった

からか誰にも会わなかった。

歩き始めて 40 分程で水場に着く。さらに 20 分程進むと九折越に着いた。ここで小休止。傾山の勇姿が見えるので皆さん写真を撮っていた。この時期は冬枯れで雪も無く縦走路は快適だ。3 時間程歩いて山頂 12 時 10 分着。記念撮影をし山頂で弁当を食べた。ジッとしていると寒いので早々に下山。外気温は1℃。下山途中、小雪が少しだが降り出した。笠松山はパス。

今日の宿泊地は佐伯の街中だから、車の移動だけでも 1 時間くらいは掛かった。セントラルホテルの一階の宴会場で忘年会。重廣さんからお話しをいただき宴会が始まった。宴もたけなわだけど中野さんが見当たらない。聞くと黒仁田林道でパンクをしたらしい。宴会ももう終盤になってやっと到着。皆さんから大歓声を受けていた。



翌日は雨。また 1 時間程掛けて木浦まで戻り、唄げんか湯の先から左折して天神原山へ。ここも山頂近くなって雨はみぞれになった。最後の山頂までの登りはとても急登だった。山頂で記念撮影して下山。もう以前登った記憶は完全にとんでいるが、一人で登ったとき、ゆるいスロープのところで、黒い雲の様な塊りがかなりのスピードで私の前を横切ったので思わず反り返った記憶は生々しい。きっと女郎の霊だったに違いない。

帰りに、唄げんかの湯に入った。ここの湯はいつも最高。(^,^)

≪山参加者≫

重廣、加藤、首藤、阿南、飯田(勝)、園田、中野、久保、下川、阿部、浅野、櫻井、宮原、若月、山村、日向、石川、長野、遠江、佐藤(彰)、飯田(修)、柳瀬、清水(道)、清水(久)、松浦、河津、今川、平原(瑞)、岩尾、水本、平原(健)、山崎

総勢 32 名

≪忘年会参加者≫

重廣、加藤、首藤、阿南、飯田(勝)、木本、園田、中野、久保、牧野、下川、阿部、浅野、宮原、若月、山村、日向、石川、長野、遠江、佐藤(彰)、飯田(修)、柳瀬、松浦、今川、岩尾、水本、山崎、星子、渡辺(和)、工藤、土屋、河野(達) 総勢33名

宮崎ウエストン祭と大障子岩

ウエストン祭 土屋 多喜子(15827)

11月3日(日)

宮崎ウエストン祭は毎年11月3日、高千穂町・五ケ所高原・三秀台に於いて開催され、今回で35回日となる。

ここにウエストン碑があるのは、1888年 (M21年)に来日したウエストン師が13年間の滞日中、日本アルプスに初登頂した前年 1890年(M23年)11月6日に祖母山に登っていた事が五ケ所に残された文書に確認されたことによる。

ウエストン師の生家から贈られたヨーク石を使った洋鐘付きの高さ7mの碑にはめ込まれたウエストン師のレリーフは穏やかな顔で祖母の頂に目を向けている。

小高い三秀台の午後3時30分、日も落ち足元の草の中ポツポツと咲くうめばち草の白い小花が冷たい風に揺れていた。式典は地区の有志、小中学生、九州5支部の山仲間等を含む150名の出席者の中、田原小学校児童による点鐘で始まる。山岳遭難者への黙祷、献花、有志、関係各位の挨拶等続き、ウエストン師を偲んで追悼文や詩の朗読もあり、最後は全員で祖母山に向き「ウエストン祭の歌」をウエストン、ウエストン、ウォルターウエストンと呼びかけるように大合唱し式典を終えた。

式典の後は、地区野菜集出荷場広場での前夜祭。 炭火で温めたカッポ酒が冷えた体にしみわた



ウエストン祭・式典風景

る。地区婦人の手作り料理も並び、ステージでは神事の後、夜神楽や踊り、太鼓等此処ならではの出し物が披露される。地区の子供達はこの日のために練習を重ねたのだろうか、真剣な顔で踊る姿には昔懐かしいおひねりも飛んだ。

その後、宿泊場所の地区公民館で、九州5支部 48 名の懇親会となる。飲むほどに会話が弾み、自支部の現状や来年に向けての行事や抱負、又、抱えている問題点を次々発表し意見交換する。最後は足のふらつく者も居たが、全員で輪になり 刈干きり歌を歌う、炭坑節を踊ると九州の仲間意識の深まる時間となった。

翌日4日は早朝から、それぞれの支部に分かれ計画していた山にむけ出発した。

東九州支部参加者 加藤、木本、阿南、唐 津、工藤、若月、清水、雪野、土屋

大障子岩 (1451m)

若 月 美智子 15735)

11月4日(月)

ウエストン祭の翌日7時30分頃、宮崎県高 千穂五ケ所公民館を出発する。

ここは山深い所なので朝晩は冷える。昨日よりは天気は良いがどんよりとした秋の朝だ。

8時10分神原の神の里交流センター緒環で 125 ccのバイクで大分から馳せ参じた河野達也 と合流し、まもなく白水登山口到着。阿南、唐 津、川野,若月はここから八丁越ルートで山頂 を目指す。加藤支部長他女性4名は移動して尾 平登山口から行ける所まで行く計画だ。

8時40分登山開始。針葉樹林の続く結構な傾斜の中を延々と歩く。大岩を過ぎ小さな沢を越え岩をよじ登ったり巻いたりするが、八丁越ルートの案内板が至る箇所にあり間違えそうな場所はなかった。

八丁越尾根まで約2時間。この辺りからは祖母山から北東に走る障子尾根と同山から南に走る県境稜線の展望が溜息が出る位素晴らしい。 丁度晴れ間が覗き出して目前にピークの大障子岩を仰ぎ見て武者震いを起こす。今年の紅葉はもう終わりかと思っていたがなかなかどうして我々の目を楽しませてくれた。春にはシャクナゲ、アケボノツツジ、ミツバツツジ等も賑やかに咲くとのことだ。 この八丁越は祖母・傾縦走ルートの通過点で 右へ行けば池の原・祖母山方面、左へ行けば大 障子岩・上畑方面。多くの岳人がここを通った



のだろう。但し山が人を選ぶのだ。玄人好みの このルートは急峻な箇所が至るところにあり油 断禁物なのである。

大障子岩の圧倒的な断崖に一瞬恐れをなすが 勇気を振り絞り岩に挑む。一旦急坂を下り右側 からアプローチをし、岩壁をよじ登ると山頂に 到達する。11時 30分。祖母・傾の大パノラ マが 360 度広がりそこからの見晴らしに暫し ウットリとした。

12 時昼飯を済ませ帰路に着く。下山時は特に足元に神経を使う。八丁越で二手に分かれる。阿南・河野さんは白水へ来た道を戻る。唐津・若月は尾平へ下る。先を急いで 10 分位行った所で突然ヒュッと鹿にしては変な声が聞こえた。加藤支部長が息を荒げながら現れた。こちらの道は荒れ果てて危険なので下りない方がいいと言われ従う。また八丁越まで登り返す。これがとてもきつかった。八丁越で阿南さんに連絡を取り途中の大岩で彼らに追い着いた。

私が時々感じる事なのだが、登る時にここを 下るのは怖いなあと思ってみるが実際下る時に はそうでもない事がよくある。勿論そうではな くない時もある。支部長は今年喜寿登山のお祝 いをしたとは思えないほどのしっかりとした熟練者の足取りで早い。

白水登山口下山 14 時 50 分、阿南車で尾平の駐車場で帰りが遅いと心配をしているはずであろう女性 4 名の所に急ぐ。何故ならば尾平側はケイタイの電波が届かないので状況が分かっていない。彼女達は途中の危険ヵ所から先へは進まず撤退したのだ。

尾平登山口 15 時 40 分到着。お互いの無事を確認し大障子岩を後にした。充実した秋のガッツリ登山になった。

<参加者> 加藤、阿南、唐津、河野、若月 工藤、土屋、清水(道)、雪野

御前岳(1209.0m)·釈迦ヶ岳(1231.0m)

11 月月例山行報告

木 下 恵 子 (会友 186)

御前岳・釈迦ヶ岳は津江山地を代表する山で、福岡県との境に位置している。『二峰を結ぶ稜線歩きは快適で、展望と自然林のアップダウンが楽しい山旅を約束してくれる』という情報に期待感が膨らむ。

当日は秋晴れの好天に恵まれ、大分組・別府組の総勢19名が5台の車で高塚地蔵尊前の駐車場に集合した。 里の方まで下りてきている紅葉に心弾む。

今回は田代登山口から椿ヶ鼻登山口までの6時間弱の縦走である。8時30分登山開始。どんな景観が待ち構えているか楽しみにしながら、落ち葉が積もる斜面をサクサクと進んだ。シオジ、ケヤキ、ブナを中心にした樹林帯が何とも気持ちいい。御前岳の谷間にあるシオジの原生林は国内有数の規模を誇るとのこと。見事な巨木を仰いだ。中腹には豊の国名水15選に選ばれた『御前岳湧水』の看板があったが今回はパス。

急登もあったが色とりどりの落ち葉に励まされながら約1時間半で御前岳に到着。広々とした山頂には『景行天皇御遺跡』の石碑が建てられており、遠くには雲仙岳や阿蘇山等だ。大分



百山を目指している人が数名いて、全員で声高 らかに、「完登 バンザーイ!」

ここから釈迦ヶ岳まではほどよいアップダウンに富んだ稜線歩きだった。紅葉・黄の風景に「きれい〜」の声が何度も。山頂直前は鎖のある急登だったが、登ってきた御前岳を振り返りながら約1時間で釈迦ヶ岳に到着。思ったより狭い山には一等三角点と台座の祀られた釈迦像が。ここでも遠景を堪能し、「完登 バンザーイ!」九州百名山にも名を連ねている釈迦ヶ岳には2つの峰があり、最高点は大分県にある普賢岳、もう一方の峰の本釈迦は県境にあり、福岡県の最高峰になっている。

昼食は広々とした展望所にもなっている気象観測ドームで。他の登山者も数名いて、皆で見事な眺望と陽だまりを楽しんだ。「下山のルートは約1時間」と聞き、「楽勝~」と思いきや、これが結構な急勾配。余裕派も慎重派もいたが、格好のアングルとばかりにスマホを構える人達もいて、賑やかに下った。しっかりした鎖が随所に張られていてありがたかった。

今回、リーダーの丹生さんは数回下見をして、ルートを検討し、山道の整備までしてくださったという話を聞き、頭が下がる思いがした。毎回の月例山行がこういうかげの努力により、安全に楽しく行われていることに改めて気付かされた。感謝の気持ちと共に自分たちもより主体的な姿勢で参加しなければと感じた山行だった。

<参加者>

丹生、飯田(麝)、 牧野、下川、宮原、尾家、河野、久知良、遠江、柳瀬、清水(瓜)、松浦、賀来、木下、大星、井伊、三浦、榎園、飯田(修)

登山教室 (第3回実践講座)

横岳キャンプと津波戸山(529.1m)

宮原照昭(15683)

講習する。6時から夕食でキムチ鍋を食べながら自己紹介をして和気あいあいで布団を敷き皆で雑魚寝する。

次の日(日曜日)朝 7 時起き朝食と弁当を作り8 時 30 分に津波戸山登山口に集合する。エスコート会員(飯田・遠江・宮原・宮本)4 名集合する。まずリーダの興田さんの説明があり直ぐに登山開始。民家の横から農道を歩くと本格の登山口に着き10分位で海蔵寺跡に着き休憩した。ここには、弘法大師を祀ったお堂があり、ハ十八ヶ所の1番所になっている。ここから岩尾根コースなのでクサリと岩を登り下りしながら少しずつ高度を上げていくとお地蔵さんが多数ありそして岩の上に上がると細い石橋があり、又天気が良く風景を楽しみながら又急こう配になり受講生が足届かない所を、皆で励ましながら進んで行く。

私も去年初めて歩いたがまだまだ厳しい所 だ。受講生もこの津波戸山の岩尾根コース歩い たらレベルアップになる。谷沿いを上がって行 くと水月寺奥の院に着く。ここで水を飲み、休 憩してさらに登ると尾根に上がりそれを左に行 くと山頂だ。さらに西に進むと第2展望所で、 引き返して三角点山頂で記念写真を撮って第1 展望台で昼食した。12時過ぎ直ぐに下山開始 して今きた登山道を降り尾根から谷沿いにに降 りる途中から左行き岩場を登ったり下りたりし てスリル満点。時間位で登山口駐車場に着く。 解散式をして終了する。受講生達も尾根コース



津波戸山三角点山頂にて

を歩いた実績をこれから登山に役立ててもらい たい。

参加者(リーダー興田・エスコート飯田・ 遠江・宮本・宮原・受講生6名)

研修山行 由布岳(観音岩)

(クライミング練習)

田 所 歳 朗 (14024)

11月30日(土)

予定していた高崎山の大谷が利用できなく、 由布岳の裾野にある観音岩で実施することになった。また、東九州支部と緑山岳会2名との合同で総勢7名で研修を実施した。最近はメンバーが固定化されてきていたが、今年は櫻井が参加するようになり、これをきっかけに増えることを期待している。しかし、矢上が来ないと最年少はいつも私。少子高齢化の波には逆らえないのか?組分けは安東・櫻井ペアと残りの3人、それと緑山岳会のペアの3組で登る。

現地に着いたら装備を身に付ける。アイゼンは斜面では斜面の上を向いて装置する。斜面に腰掛け脚を下にすると、楽ではあるが、そもそもアイゼンは滑りやすい場所で使う物で、斜面の下を向いて座る事は滑り台に座る事と同じ行為。斜面の上を向いて利き脚じゃない方から装着する事と、報告書に記載するのは3回目だが、読んでくれているだろうか?記憶に残っているだろうか?読む人の心をつかむってのは難しい。

観音岩は複数のルートがあるので、各組が別々のルートで登る。緑ペアと安東・櫻井ペアが西壁に取り付いたので、我々は南ルートで登る。協議の結果ここは私がリードで登る。協議の結果ここは私がリードで登る。低木にアイゼンが引っ掛かりドキっとする事がある。登ったら少し忙しくなる。まずは自分をセルフビレイ。一番危険な状態なのは自分自身なのを忘れずに。下の人にビレイ解除と声をかける。次にたるんだロープを引き上げムンターヒッチで次に登る人をビレイする用意をする。準備が出来たら下の人にどうぞ〜と声をかける。クライマーの動きに合

わせてロープを引き上げる。2番手は笠井なので引き上げるロープが軽い。おっ、西壁から櫻井が登ってきた。すごいよ。よく登ったな。笠井が登ったら交替して、笠井が鹿島のビレイをする。鹿島も登り終え、次は西壁へ。



西壁が一番簡単と言っていたが、私にはそうは思えない。嫌な予感がするからリードは 笠井にお願いする。やっぱり笠井にリードしてもらって正解。私は掛かりそうで掛からないアイゼンに苦戦。アイスクライミング用の縦爪は横方向のクラックに掛かりにくい。悪戦苦闘する姿を上から笑顔で覗く笠井と安東。私もロープ引っ張ってねと微笑み返す。

降りたら小休止しながら、次の東壁を他の組がどうやって登るか観察。見た目以上に難しいようだ。緑山岳会の二宮は足が外れて宙を舞い、安東は股関節が~。櫻井はがんばれ~あと1m登ったら降りていいと励まされている。私は迷わずアイゼンを外した。ここは私がリードで登る。なるほど、これが股関節が~の正体か!足がギリギリすぎる。私は最年少だが最小でもある。体が小さいのだ。知恵と工夫が必要。壁面の牛の鼻緒にスリングを通す。スリングに掴まり左足を掛けると高すぎる。じゃあどうする?右足を高くすれば良い。ハーケンにスリングを掛け、右足をスリングに乗せて左足を伸ばすと、股関節の問題は解消した。時間がか

かってすみません。2番手3番手はスルスルっと登ってきた。どうやって登ったかは上からは 見えない。気になるな~。

最後に観音ルンゼを登る。途中にせり出した 岩があり、どうやって巻くかがポイント。高さ はないのだが、せり出した岩の威圧感が恐ろ しい。とてもリードでは登れない。トップロー プにして再チャレンジする。トップロープでも 怖いものは怖いが、安東のビレイを信じて岩に 挟まる。足が滑っても止めてくれる。少しずつ 手足をずらしてなんとか登れた。次に緑のペア 二人があっさり登った。もっと経験を積まない とダメだな〜。

本日はこれで終了。アブミの使い方、クイックドローに素早くロープを掛ける外す方法など、収穫の多い研修だった。アイゼンの練習なのに半分はアイゼン外してごめんなさい。帰りの道中に思ったのだか、アイゼンの爪先を1本にしていた方が良かったのかも知れない。来年は1本爪を報告します。



(追記) 長崎に超初心者向けの岩場があります よ~。これから始めようとする方はいつでも長 崎に来てください。

<参加者>

講 師……安東

受講者……櫻井、鹿島、笠井、田所

個人投稿

ペンリレー・第35回

「池の小屋の思い出」

浅野総一 (15201)

飯田高原から眺めるくじゅう連山の美しい姿に引かれて、通い始めたのは40歳の頃です。以来20年余り、四季折々の山歩きを楽しんできました。冬季、中岳近くの「池の小屋」は、吹き付ける寒風を遮り、ガスバーナーで沸かした一杯の湯で体を温め、昼飯にありつかせてくれる有難い存在でした。

ところが、長い年月を経て「池の小屋」の壁や屋根には割れ目ができ、小屋はロープで閉鎖されてし



まいました。入り口には「老朽化のため危険」という看板が掛かり、放置すれば壊れてしまったかも しれません。「改修の手だてはないものだろうか」。2008年、勤め先の大分合同新聞社で担当して いたコラム「東西南北」にその思いを書きました。当時、山岳関係者から改修を望む声が強かったと 聞いています。

約1年後、小屋を管理する大分森林管理署から「国の予算で改修するめどが立った」という連絡を受けました。小屋は昭和6年(1931年)に建設されたと記録にあるとも聞きました。改修工事は2009年9月から始まり、11月に落成式が行われました。誠に朗報でした。

「なぜ池の小屋は建設されたのだろう」。その疑問を解いてくれたのは、筑紫山岳会(福岡市)が 昭和16年に出版した「九重山」でした。その記述によって、昭和5年8月に福岡県在住の青年2人 亡くなった遭難事故がきっかけとなったことが裏付けられたのです。「九重山」の編集兼発行者は加藤数功氏(故人)、本を所有していたのは加藤英彦支部長です。取材した当時、私は日本山岳会の会員ではありませんでしたが、加藤支部長から本の存在を教えていただくご縁を得ました。

その後、遭難碑が加藤支部長らの手で修復され、2010年から慰霊祭「山の安全を祈る集い」が 執り行われていること、池の小屋に慰霊碑の案内板が設置されたことは、皆さんがご存じの通りで す。

私が加藤支部長からお誘いをいただいて日本山岳会に入会したのは2012年9月です。日本山岳会が公益社団法人になった後であり、ベテランぞろいの東九州支部では新参と思っています。ただし、加齢は否めませんが。

次回のペン・リレーは山岡研一会員(15674)にお願いしました。お楽しみに!

より安全な登山のために M.35 「**北海道大雪山 旭岳遭難**」 安東桂三(9193)

北海道の最高峰、表大雪旭岳(2291m)は、 通年、道迷いによる死亡遭難事故が多発してい る。昨年も、いくつかの道迷いなどの事故が発 生した。なぜ、事故が多いかを考えたい。

大雪山旭岳ロープウェイの姿見駅より、登り 2時間20分、下り1時間30分、合計3時間5 0分のコースタイム。半日で往復できる。牧ノ 戸峠より、久住山の往復登山と、行動時間の差 はあまりない。ただ、標高は、九州最高峰の中 岳より、500mほど高いだけ。ロープウェイもあ り、楽な山に見える。ここに落とし穴があり、 旭岳の困難さを見落としてしまう。晴天なら ば、ルートのすべてが、見えるし、下山中は、 ロープウェイの姿見駅も望める。が、天候が崩 れ、霧などが発生すると、辺り一面真っ白で視 界の利かない状況となり、同行者の姿も見えな くなるほど。また、『金庫岩』と名付けられた岩 以外に、目標となるものはない。また、旭岳 は、緯度の高い場所にあるため、九州や、本州 の同じくらいの標高の山より、気温が低い。北 アルプスの槍ヶ岳(標高 3180 m)と比べてみる と、旭岳の最高気温 5.9℃、平均気温 3.1℃、最 低気温マイナス 0.6℃、槍ヶ岳の気温は、それ ぞれ 9.2℃、4.5℃、0.9℃(データは、9月の 気温)。これで、気象条件が北アルプスの3000 m峰より厳しいのが、理解できたと思う。ま た、下りで道迷いになると、金庫岩から、旭岳

南斜面に迷い込むパターンが多く、忠別川のい くつかの支流に入り込んでしまう。

大雪山は、北海道の真ん中に位置し、天気の 影響を日本海からと太平洋からの両方から受け るという性質もある。それで、登山者の考える 安易な登山と、山自体が提供する厳しさのギャップが、その遭難の主原因と考えられる。

私も若いころ、死んでしまうかもしれないという経験を旭岳で、受けた。時はゴールデンウィーク、ソロ登山。連休登山で、北海道の主要山岳3山(利尻岳、旭岳、羊蹄山)を登りに出かけ、最初に利尻岳を登って、登山口の旭岳温泉にやってきた。

利尻岳は、フェリーで渡り、甘露泉にベースキャンプを設営し、そこから、スコップ・ツエルト・バーナー・非常食などを持ち、登って帰ってきた。もちろん積雪は多く、5m以上。雪のある山は、先に記述した装備は、必需品で、山が荒れたら、雪穴を掘り、温かいものを食べ、一晩でも二晩でも、過ごし、天候回復をまって下山するのが常識。利尻岳は、そのような装備を使わずにすみ、良かった。

さて旭岳。日本海に低気圧が、3個発生、どうしたものか。その低気圧がやってくると、山は荒れ、その影響がなくなるまでは(天気が回復するまでは)、登山ができないかもしれない。大雪山旭岳ロープウェイの駅に行くと、明日の始発は、9時と言う。始発の時間をまって、それに乗車していくと、天気が崩れてしまう確率が高い。寝られぬ夜を過ごし、結局、朝3時より、ロープウェイの索道の下を歩いて登って行った。姿見の避難小屋に登りついた時、その積





晴れていれば、ルートは判るが。 ガスれば、難しい

雪は4mあり、避難小屋の2階の出口より、中に入った。少しのビスケットを食べ、濡れた手袋を交換し、また、登って行った。(避難小屋は、建て替えられ、現在は2階建てではない)

最初は、十勝岳方面が見えていたが、次第に、それも見えなくなり、山頂についた時は、吹雪いてホワイトアウト、下山しようとするが、今登ってきたトレースも判らない。とにかく西に向かって下りればよいと思うが、磁石は効かない。旭岳は火山で、火山性の岩は、磁性を帯びて、磁石の方位を狂わせる。困ったと思った。吹雪かれた上に、下りる方向が分からない。かつ、一番の問題は、丸腰ということ。低気圧が来る前に登ろうと、スピードアップしようと、装備の軽量化をしてきたこと。スコップもない。ツエルトもない。バーナーも。何もない丸腰。

困ってもしょうがない、とにかく下らなくてはと、東と思われる方向に下り、ある程度標高を下げたところから、右方向に、山腹をトラバースしたら、先ほど登ってきた自分のトレースを発見し、それを下った。すると、前方にスキ

ーを担いだ2人組。その二人組は、昨夜、旭岳の山頂にテントを張り、宿泊し、下山中に道に迷っているところと言う。私が、山頂に登った時には、彼らは山頂から下っているところで道迷いになり、私とすれ違わず、次に私が迷って修正後に、彼らと合流したという事。それからは、3人で姿見避難小屋に向かい、彼らはスキーで、私は、索道下を歩いて下った。丸腰の装備に、命を失ったかもしれないと、今でも思っている。

昨年の旭岳の山岳遭難に、大分県の方がい た。メディアで名前、年齢などが報告された し、レベルの高い岳人だったので、JAC の会員 の中には、知り合いの方もいると思う。2月14 日に旭岳ロープウェイで入山し、スノーシュー を装着し、旭岳に登って行った。他の登山者 が、悪天を理由に、途中より下山する中、彼は 登っていき、途中で道迷いになり、下山できな かった。その旨、携帯電話で連絡があったが、 結局、遭難し、数日間の捜索では見つからず、 夏になっても出てこなかった。が、秋になっ て、彼からのメッセージをある人が見つけた。 その人は、釣り師か、沢登りの登山者で、沢の ペットボトルを拾うと、その中に、手紙が書か れてあったと言う。その手紙には、ことの次第 が書かれてあったと推察するが、彼から家族へ のメッセージで、そのペットボトルの見つかっ た沢の上流部には、彼が救出をまっている可能 性がある。いずれ、何らかの結論が導き出され ると思う。

第1回「82才が坂の市を歩いた」

三角点と山城探検シリーズ

安倍可人(会友 11) 宮原照昭(15683)

59才購入27万km走行のハイラックスサーフはもう四駆、ロウセカンドギア効かず、運転手もバック運転下手で免許更新で脱輪した(95歳になったら返納する)。佐伯惟治(栂牟礼城主・宗麟の父義鑑に殺された)が自刃した北浦IC「陣ヶ峰」431.0三等三角点(20年前の月例会の遠見山の展望あり)の探訪は、歴史会

の若手が代行運転してくれたが転落の恐怖だった。「鏡山」645.4一等三角点も実現した。 石段登りも怖い、いよいよ老人力だ。

さて、宮原君から指導を依頼されて、彼の弁 当配達のため、「午後2時からの登山」(ご法 度)毎週が3年目になった。10数年前、石川君 と探検した「大分市隠れ名山」三角点160地 点の中から山らしい30地点を選択して実行し ている。照葉樹林の素敵な坂の市、宮原第一歩 の「読図登山」が始まった。結果流行の"アプ リ"効果、頂上まで付き合う必要なしだが、下 りはまだ心配だ。

(注)全国にある"陣ヶ峰"とは神が守る 峠、だから戦乱では宝物などを埋めて隠した、



と読んだ。**写真**は惟治自刃の地。(三角点の下、 惟治を祀る高知尾神社(受験の神様人気)合流 点の峠)。

「坂の市の隠れ名山」

- 1. 中尾山(208.6m) 4等 昔飯田さんが会報で紹介の、照葉樹林の3ピークの散歩は90才でもOK だ。山頂から西へ軽く迷い込んだ宮原の記念すべき初登山だ。3度目だが楽な山だ。樅木山からの帰りに、河内に通じる道の峠に駐車していける。
- 2. 神崎山(170.3m)3等 河内地区すぎて細い 道は「資材置場」の標識から西へ突入、中は天国 で西へ緩い谷間、急登を避けて右の支尾根へ、岩 混じりの主稜線10分で山頂、日没の心配がない ので帰途は支尾根を直進して、宮原君と故意に道 迷いの練習。(81才 春実行)
- 3. 小辛幸(136.1m) 3 等 小志生木トンネルの 西口に駐車場、参道を上がると高橋神社(高度60m)、そこから針葉樹林の尾根を南東へ500m、大正10年陸軍省・豊後要塞の石柱があり、その

- 先の三角点まで神社から 25 分。今でも国有林なのか、伐採されない。
- 4. 中ノ原(133.2m) 4等 いい山だ。軽便鉄道の跡に駐車、民家のはずれ「土石流」の標識から照葉樹林を緩く登っていく。200mほどで尾根の台地上は猛烈なの背丈ほどのウラジロのブッシュで、それを避けて、稜線の下を巻いて、三角点のある地点へ直角に左折して登るとウラジロに埋もれて三角点あり。以前、飯田さんさえ見つけきれなかったその三角点を、石川・安部30分探して発見したことがある。
- 5. 城山 (烏帽子嶽城) (267.8m) 4等 90才でも0Kの山。佐賀関高校跡の前から林道を南へ登る。1.5kmの三差路に駐車。「北東登山口」から南を巻いて眺望の山頂まで30分。帰途は北の分岐(左はダム)高圧塔45を直進して2つ目の塔46から巡視路を下り5分で林道、駐車場まで400mの一周は楽しい(81才実行写真)



- 6. 高城山(点名:一尺屋)(403.4m)4等 林道の峠、248mの地点に駐車。破線の樹林歩き20分で新しい神社まで下見。以前中野君はヤブを直進、安部は右下を巻いて三角点に向かって樹林を急登して30分で着いている。さて、今秋コギコギクラブは、神社からは照葉樹林の急坂を樅木山まで歩いたという。
- 7. **藤尾山 (443.6m) 4等** ・もみの木トンネルの東口から藤ノ尾の集落まで、急坂運転がもう恐怖の連続だ。終点にある真新しい家から飛び出した美人が道案内してくれた。この人「体調をくずして帰郷、親の地に自力で小屋を建てた」という。TVより面白い「田舎の一軒家」。小生、若ければ茶飲み話から発展を期待したいが、今は変質者に見られよう。コギコギクラブ

とはヤブ化した山頂で会った(昔は素晴らしい 眺望点)。

8. 他にトギシ山(409.7m)、轟山(219.4m)、姫岳(382.7m)、樅木山(484.1m) 黒島一周コース(長浜〜桑原)などがおすすめ。

(最後に)投稿はやめたつもりが、老人会の代表として続行すべきと判断。

中国山地の山旅

宮原照昭 (15683)

7月21日に台風5号が朝鮮半島に進んでいる。大分は雨の降る中、朝8時に小野さんが家に来て一緒に別府の飯田さん・遠江さんを載せて、別府ICから東自動車道を行くと台風5号の影響で、雨が激しく降る中、中国山地に向け中国自動車道から米子自動車道の蒜山ICを降りて蒜山高原キャンプ場に着く。これから初テント泊を3泊もする。ワクワクするが緊張する4泊5日の登山の旅だ。

1日目 蒜山高原キャンプ場泊

キャンプ場でチェックインのあと、指定されたテント場へ行く。しかし天気予報は悪くて、今にも降り出しそうな空で、出来れば露天のテントは避けたい。車を炊事場に付けて道具をおろし、先ずは遠江女史が夕食の準備で、その間に男性達は雨を避けれるテント場探し。広いキャンプ場には3組しか客はいないらしいので、炊事場の屋根の下を借りることにした。

テント泊の1番は料理だ。その料理は評判の 遠江女史、1日目はすき焼鍋だ。まず冷えたビ ールで乾杯。美味しいすき焼きを食べながら日 本酒や焼酎でにぎやかな宴会だ。

2 日目 上蒜山登山(かみひるぜん)(1202 m) と鏡ケ城キャンプ場泊

朝食を済ませ、テントを撤収して6時30分、上蒜山登山口へ車で移動。ちょっとわかりにくい登山口で、何回も道を間違えてうろつく。そしてやっと牧場の横を通り、牛に見送られて樹林に入ると、ここが登山口だ。8時30分、2時間のロスだ。最初は緩い道だったが、スギ林にはいると階段の急登が続く。そしてスギ林を抜けたらやっと緩くなりここが2合目

だ。そこから視界が開けて気持ちが良いと思ったが、曇りで遠くはガスも掛かり景色は望めない。

8合目の槍ヶ峰(1116m)に10寿30分に着く。登山口探しに手間取りここまで約4時間もかかる。ここからほとんど平坦な道を行く。その道にまだ真新しい獣の足跡が20mほど道さっていない大きさの熊の足跡が20mほど道に残ってササの中に消えている。要注意!互いに大きな声を出し合いながら進む。30分弱で上蒜山の頂上だ。木立の中でガスっていて展望はない。時刻はまだ11時過ぎだが、予定より遅れており、中蒜山・小蒜山まで行くと、予定していた帰路のコミュニティバスに間に合いそうにないのでそのまま来た道を下ることにした。写真を撮り、直ぐに8合目へ引き返して昼食。遠江女史の作った昼食の弁当を美味しく食べた。



上蒜山にて

下っているとやや視界も開けて、蒜山高原の 景色も見えてきたが、上空にはまだ黒い雲が覆っている。急ぎ下っていき、スギ林に入り、ス ギ林を抜けて登山口の牧場に出ると空は真っ黒 で、牧場横の涌き水で喉を潤しているといきな り夕立だ。雷も鳴り、雨が激しく降る中急いで 車まで戻る。

街に戻りスーパーで今夜の食事用の買い出しなどをしている間に雨は上がってる。次の宿泊場所の鏡ケ城キャンプ場(930m)に行く。チェックインをしてテント場を指定されるが、今夜も夕立に備えて、屋根の下のテント場を探す。ここも今夜は利用者が少ないので、炊事場の屋根の下に決めた。

遠江女史は早速夕食準備。今夜はキムチ鍋だ。男達は濡れた雨具やザックや夕べ濡れたテントを干して、キャンプ場横にある、同じ施設のホテルの風呂に行く。途中で明日登る烏ケ山の登山口を下見に行く。今朝の教訓だ。

ホテルの風呂は大きくて気持ちが良かった。 ホテルはキャンプに来ている小学校の生徒や父 兄達で大にぎわいだった。風呂上がりのビール がうまい。キムチ鍋もうまい。焼酎もうまい。 宴は和やかに弾んで床に就く。

3 日目 烏ケ山 (からすがせん) (1,448 m) と 広島県民の森キャンプ場泊

今日は「山陰のマッターホルン」と呼ばれている鳥ケ山だ。しかし天気が思わしくないが覚悟を決め、直ぐに食事し準備してテントを撤収。キャンプ場から10分位で新小屋峠の登山口(990m)に着く。時刻は7時30分、登山口には「クマが出没する」看板あり、熊の鈴を持っ



ていないので、こわごわと先頭で行くが、しかし「ガサガサ」音がする。しかし登山道は前日の影響でぬかるみと霧がかかり何も見えないが 周りは小鳥が鳴き出し涼しい。

ブナの林とクマザサの中の緩やかな登りが続き、小さくアップダウンを繰り返しながら次第に急になり、登山口から1時間余り、8時35分に新小屋別(1230.4m)の三角点に着く。回りは霧の中、全くのホワイトアウトだ。ここから直角に左に折れて、少し下ったあとは激しい急登のアップダウンで高度を上げていく。深い霧で木の根がぬれて滑りやすく、道を覆う深いクマザサがびっしょりで、まるで雨の中を登るような感じとなる。雨具を付けていないのでびしょぬれだ。

ぬれながら登ること40分。好天ならとっくに烏ケ山に着くはずなのに高度はまだ1350mで山頂まで距離もまだ150m。しかしこれからが本番だが、深い霧の向こうは深いササだけが続く。こんな中、頂上直下の危険な岩を登っても何も見えないだろうと言うことになり、引き返すことにした。

9時30分下山開始。下っていくと男性が1人、少し行くと女性2人登ってきた。声をかけて励ます。新小屋別れの標識の前でまるで山頂で撮ったようなポーズの写真を撮って下山。途中で雨になる。私達は雨が激しくなる前に登山口に着き(11:20)、朝のキャンプ場に戻って昼食だ。そのころには雨が上がっていた。昼食してたら近くではキャンプに来ていた小学校の生徒が、昼食のカレーライスを作っていた美味しそうだ。それを背に次のキャンプ地の広島県民の森キャンプ場へ向かう。約2時間で着いた。

チェックインのあと、指定のテント場へ。誰もいなくて今夜は貸し切りだ。雨に備えて今夜もテントは炊事場の屋根の下へ設営。そして、遠江女史のお言葉に甘えて、またも料理の準備中に男達は県民の森公園センターのお風呂へ行く。今夜も湯上がりのビールがうまい。遠江女史の料理もうまい。

4日目(烏帽子岳)(えぼしだけ)(1225.1m)・ 比婆山(ひばさん)(1264m)・広島県民の森公 園センター泊

3回目のテント撤収だ。たたみ方など慣れて来た。今日が今回の登山の中で1番の天気だ。ここのキャンプ場が登山口入口なので、朝食を食べて移動。7時40分、標識を見て、沢の近くの広い林道をゆっくり上がって行く。杉など針葉樹林を歩き又小鳥など鳴き、ゆっくりと歩く。この中国山地の登山の中で一番の景色だ。出雲峠の手前に避難小屋がありその周りに花が咲いていた。8時30分過ぎ、広い平らな出雲峠に着いた。

その上の分岐から左に入りヒノキ林の中の緩い登りを少しずつ高度を上げて行く。ヒノキ林を抜けて落葉樹林の登りを緩く詰めると峠から40分で烏帽子岳に着く。広い平らな山頂で、そこには山座固定盤があり大山をはじめ中国山地の山々が見えるように書いているが、遠くは霧の中で何も見えない。

古代信仰の名残りとも言われる条溝石などを 見て、次の比婆山に向けて高度を下げていく。 そして鞍部から緩い登りでスギの巨木の多い比 婆山の山頂部、日本神話でイザナミが葬られた とされる御陵に着く。湿度が高いのでブヨが多 くて逃げるようし早々に下山にかかる。そし て、立烏帽子との鞍部の手前の風通しが良くて ブヨがいないところで道脇に腰かけて昼食。そ の下の分岐から立烏帽子へは行かずに下山す る。山道から林道に出て長い林道歩きでキャン プ場に着いた。

今夜はテントではなく県民の森センター泊まりだ。料理もキャンプの料理も良いがが久しぶり生ビールと比婆豚料理に堪能して熟睡する。

5日目 広島県民の森―別府―大分

朝7時30分朝食を食べ9時30分に出発し国 道と中国自動車道、九州自動車道で家に夕方5 時30分頃帰宅する。

この中国山地の登山では初めてのテント泊3 泊を体験、寝袋の下のマット、虫対策の蚊取り 線香、キャンプ料理、霧や、雨や、薮や、最後 は良く整備され比婆山など色々体験した。しか し中国山地のまだまだ知らない山を登りたい。

<参加者>飯田勝之・小野則夫・宮原照昭・遠 江洋子



熊の足痕・前足

私の無名山ガイドブック (N075)

大畑山(400.3m)・駒鳴(362.9m)

飯田勝之(10912)

北川の上流の、田代川と市園川の合流点から 始まり両川に挟まれて千束の小盆地で終わる長 さ7km あまり幅2kmの小さな山塊がある。 重岡地区の北に連なるこの小山塊の二つのピークを紹介しよう。

大畑山

点名は大畑。この小山塊の主峰であるが、主 稜線から大きく南にせり出した稜線上にあり、 付近の山はほとんどがスギ・ヒノキ・クヌギの 造林地でとなっているなか、この山の頂上周辺 はヒシャカキ、リョウブ、クヌギ、ナラ、ソヨ ゴ、シラキなどの自然林である。

このピークに登るには、国道326号から大規模林道宇目小国線を東に入り、蔵小野を過ぎるとその東で、北川ダムの末端部が大きく湾曲している地点(芋ノ瀬)で南に市道が分岐する地点が良い。北に神社があり、この神社の東横から北に入る林道を上ると、入り口から約400mほどで三叉路があり道は荒れてくる。ここに車を置いて歩くとよい。

分岐を左に、やや荒れたコンクリート舗装の 林道を入ると次第に深い力ヤに覆われた道とな る。ちょっとした力ヤのヤブこぎで、20分あ まり行くと林道は終点となるが、その手前10 Omほどの所から右手の斜面にとりつくのがよ い。

スギの急斜面にとりついてひたすら直登していくと、やがてシロダモやタブの照葉樹の多い稜線の上緩い登りとなる。途中は展望の良い所もあり、やがて傾斜が緩くなるとちょっと快適な稜線歩きで、最後に緩斜面を5分も登れば広い山頂に達し、3等三角点はその北の端近くにある。

参考タイム…林道分岐 20分→林道終点手前 →25分→山頂

地形図25,000分の一「千束」

駒鳴

大畑の西にあるこの主稜線上の小ピークで、 蔵小野の集落から登るとよい。天満社の西方、 集落のはずれから北にスギ林の中に入る小径が ある。地形図にある駒鳴峠への道で、昔の蔵小 野から小野市に通じる生活道路の跡だ。しか し、暗いスギ林の中の枯れ沢沿いの道を登って いくと、やがて道はほとんど判然としなくな る。枯れ沢に沿ってひたすら登っていくと次第 に急な登りとなり、所々にジグザグの昔の峠道 の名残りらしき所も見られるようになる。



登りはじめて30分ほどで、小さな鞍部に達する。ここが駒鳴峠である。峠を右にすすむと、ひと登りで小さなピークを越し、緩く下ってもう一度ひと登りで山頂である。点名駒鳴の4等三角点は狭い山頂のやや東によったところにある。

もう一つの道、天満社の前の民家の横を通って北に入る小径を行くと、市道から300mで、水田と山林の際に三叉路がある。ここに車を駐めて、真っ直ぐ谷間の林道を登る。三叉路から7~9分(200m)で右に登る作業道があり、そのすぐ先に左に小谷があり荒れた作業道が分かれる。これを左にとると、作業道はすぐに判然としなくなるが、忠実に涸れた沢沿いに谷を登っていく。両側は薄暗いスギ林で、ひたすら登りを20分ほどで、小さなカール状のスギ林の谷間となり、上に明るいクヌギ林が見えてくる。クヌギ林の直登になれば5分ほどで山頂で、こちらのほうが早く登れる。

参考タイム…蔵小野集落路→30分→駒鳴峠 →8分→三角点

地形図25,000分の一「千束」

安全登山サテライトセミナー(in 福岡)に参加して

阿南寿範 (9169)

安全登山サテライトセミナー(in 福岡)が、 令和元年 11 月 16~17 日の 2 日間九州大学キャンパス内椎木講堂第 2 講義室にてありました。 主催は独立行政法人日本スポーツ振興センター 国立登山研修所。目的は、「安全で安心な登山 を実施するために必要な知識を普及するととも に自立した登山者の育成を目指す」。

以前は、このようなセミナーは当研修所にて、高等学校や大学、登山の指導者的立場(人達)の極一部に向けて行われておりましたが、3年前の栃木県那須の高校生の春山合宿中に起きた遭難事故をきっかけに、登山を行う多くの方にも参加頂けるよう全国各地でセミナーというかたちで行われるようになった。

セミナーは2日間あり、1日目は、①山の医学について、②山のプラニングについて、③運動生理学について、2日目は、①積雪と雪崩、②山の気象、③山でのリスクマネージメント等を学習することが出来ました。

私は、学生時代に先輩から教わったこと以 外、山岳図書からの知識でのかすかな知識でし かなく山登りを続けてきたが、それは古い知識 と言わざるを得ない。体力ありきで登った時代 から、技術革新の目覚ましい昨今、運動生理学 等、新たな知識を取り入れたスポーティな登山 が要求されるようになってきた。また、地球温 暖化の影響で自然界では新たな現象が起き始め ている。人工衛星の活躍で宇宙からの観測の精 度が格段に上がり天気予報のデジタル化で精度 が上がった。これらの手法を利用しない分けに は行かない。山登りは昔から自己責任において 行われるものであると言われてきた。最近のパ ーティ登山、組織登山での訴訟や裁判を多く目 にする。

今回のこの機会を得て最近の登山変化について様々学んだことは、とても有意義な2日間であった。機会があれば、山登りに関わる全ての方達にこのセミナーに参加することをお勧めします。

支部からの報告

2019 年度 支部連絡会議及び 記念講演会・年次晩餐会報告 支部長 加藤英彦

支部連絡会議

日時: 令和 12月7日(土)10時30分~12時

会場:京王プラザホテル4階 「花C」

開会: 10時 30分

出席:全国 33 支部より支部長又は事務局長

本部 会長、副会長3名、常務理事、3名,理事

7名、監事2名、総務委員長、各委員3名

会長挨拶 古野会長

要点をあげての挨拶があった。特に台風災害状況報告、自然保護活動、支部活動等

事務報告:連絡 賀来委員長

①120 周年記念事業の進捗状況 ②「海外登山助成金」募集案内 ③「特別事業補助金」募集案内 ④「第9回登山教室指導者講習会」募集案内 ⑤「山の天気ライブ授業」今後の予定と開催希望山域 ⑥登山計画書提出状況と事故事例について ⑦支部での名簿作成および個人情報について ⑧支部メールアドレスについて ⑨山岳エリアにおける被害状況について

以上報告のあと、質疑応答があった。

- ・支部名簿について、同意を得ずに作成した名簿 は、違法行為にあたると判断される。
- ・山の日記念大会、今年第 5 回は大分県くじゅう連山 8/10 祝日 8/11 記念式典、来年は山形県(蔵王)の予定

記念講演会

日本・エクアドル外交関係樹立 100 周年記念 友好登山隊報告…赤道直下の氷河の山での交流 9月1日~9月14日のエクアドル登山隊、 アドバイザー重広さんの話があった。

第21回秩父宮記念山岳賞受賞記念会講演

「西表島からボルネオ島」

安間繁樹会員の話

海外登山助成登山隊報告

ラカポシ南壁初登攀 中島健郎会員 パキスタンのフンザ地域に残されたラカポシ南 壁の報告

特別対談

「今、極地に注目!地球環境を考えるために」 船津圭三・藤田泰永・神長幹雄 3名の対説

展示会・図書交換会

- (ア) 自然保護活動の歴史と今
- (イ) 山岳写真展
- (ウ) 図書交換会
- (エ) 支部-委員会などの書籍·文献の展示・ 即売

年次晚餐会



18 時開演 京王プラザコンコードホール 参加者 509 名

天皇陛下の入場、取材·マスコミの写真撮影があり、開会

物故会員への黙祷

新·永年会員への顕彰 出席 14 名 東九州支部から大平展義紹介(6809番)

第21回秩父宮記念山岳賞表彰

高額寄付者への感謝状贈呈

新入会員紹介 東九州支部から矢上将大参加 (AO250)

鏡開き

乾杯



各テーブルでの歓談、陛下ご退席後に支部紹介、会員相互の懇親となり盛況のうちに閉会となった。(閉会 21 時)

今回東九州支部から 19 名の参加があった。 各支部でも3番目の多数の参加であった。参加された皆様ありがとうございました。他の会員の皆様もぜひ一度晩餐会に参加されてはどうですか。

翌日の記念山行「三つ峠」には、東九州支部より2名の参加。

晚餐会記念山行報告

第一級の富士展望台・三ツ峠山

飯 田 勝 之(10912)

年次晩餐会の翌日は恒例の記念山行だ。去年はこの山行に当支部からの参加は3名だったが 今年は下川智子さんと私と二人だけだ。

8時過ぎ、大型バスと中型バスの2台に約70名が分乗して新宿の工学院前を出発。車窓から見る空は快晴で、新宿の市街地の向こうに秩父や丹沢の山並みがくっきり。そうして、山並みの彼方に真っ白な富士が小さく見えている。今日は最高の山歩きが出来そうだ。

バスは中央自動車道を大月から富士吉田へと 進む。やがて右手に三ツ峠山の頂と険しい岩壁 が見えてくるともう河口湖は近い。前方に朝日 にきらめく真っ白な富士の巨体が迫ってきた。 その富士を左に見てそして、やがて後ろにしな がらバスは御坂峠へと向かう。

この山は私にとっては二回目で、一回目はもう35年も昔のことだ。しかし一人で登ったその時のことは良く覚えている。河口湖駅からタクシーで登山口まで行く計画だったから、駅に着いてタクシーを探していたら、私のようすを見ていたらしい一人の男性が「もしかしたら、三ツ峠へ行くんじゃないですか。タクシーなら二人で一緒に乗りませんか?」と声をかけてきた。もちろん「ああ、いいですねぇ」と快諾で、二人で割り勘となった。

国道脇の登山口で、互いにカメラのシャッターを切り合った後は、二人は全く別行動だった。昔の思い出がよみがえる登山口は御坂峠へ

の旧国道の最後のヘヤピンカーブに地点で、舗装の車道を数分歩くとトイレがあり、ここからいよいよ山道だ。しかし今のこの山道は幅が広くて、大きなタイヤにチェーンを巻いた荷物運搬用の車が通る道となっており、登りにも下りにも何回もそんな車とすれ違った。35年前はこんな広い車道ではなく、細い山道が山頂まで続いていた。その時も同じ12月だったが山道には数センチの雪があった記憶がある。

多人数の参加者で、最前列と最後尾と中ほどには山行委員会のメンバーがついているが、相当開いているようで、私は中ほどでゆっくりと登っていった。1時間半ほどかけて木無山の展望所に着く。前方の真っ白な富士の姿にみんな歓声を上げている。確かに最高の天気と眺望だ。富士の左手遠くに箱根や丹沢の山並みが見える。ここでみんなランチタイム。



その後、三ツ峠本峰をバックに全員集合の写真を撮って、希望者は目の前の本峰へ登る。急な階段道を急いで登るみんなのペースにつられて、息をきらして登るとやっと山頂だ。しかし山頂の眺めはまた格別だった。富士の右手に南アルプスから八ヶ岳、さらに奥秩父の山並みまで見えている。よく見ると南アルプスの聖岳の横に小さく尖って上河内岳がその存在を主張しているのまで見える。

木無山から河口湖へと連なる稜線が眼下に見える。35年前はあの稜線を、雪を踏みながらのんびり歩いて河口湖へ下ったのだ。ルート後半の、眼下に河口湖を見ながら富士山に向かって下っていった快適な山下りを思い出す。

下山はみんな早足で、登山口に3時前に着くが、ここで中型バスがエンジントラブルで動けなくなっているというアクシデント。大型車に

補助席まで全部使って超満員。ほかの車も動員 したようで、どうにか揃って帰途に就く。帰り は今年も中央自動車道の渋滞で、午後5時新宿 帰着予定が6時半になっていたが、好天と最高 の眺望に恵まれた記念山行項は幕を閉じた。

指定寄付金「広崎基金」 設立について

支部長 加藤英彦

くじゅう遭難碑は昭和5年8月11日に遭難碑の建つ丘の付近にて遭難した二人の若い登山者の追悼のために昭和6年8月関係者によって建立されたものである。支部では「山の安全を祈る集い」と称して毎年法華院温泉山荘と共催で遭難碑の前にて追悼会を開いている。

遭難した二人のうち渡辺邦彦さんの方は関係する遺族の方と連絡がとれていたが、もう一人の広崎秀雄さんの方の関係者とは連絡をとれないままであった。ところが2019年9月4日に広崎秀雄さんの姪に当たる方(中間市在住)より突然我が家に電話が入った。その後数回の連絡をとりながらその広崎秀雄さんの妹さんのお子さん達(甥)と(姪)達から永い間の遭難碑の再建や補修また案内板の設置等、私達が取り組んできた事に対するお礼の意味で寄付をしたいという申し出があった。

私はすぐに会の寄付制度がある事を思い出し、そのお礼というのは会の寄付だと判断し事務局と会計に指示。寄付の受け入れについて本部へ申し出。その方法・管理の仕方等細かく打ち合せた。

9月6日支部□座へ入金100万円。そして本部の指導のもと10月8日に別□座を開設「広崎基金」そしてその寄付金の処置や今後の管理・報告を本部古川財務担当理事よりメールでの指導のもと確認することができた。

本部としても「指定寄付金」を受け入れるとの理事会に承認をし、寄付金として正式な扱いが認められた。それは会報「山」No,893 10月号P13に掲載された。寄付者「匿名希望」寄付の目的「くじゅう遭難碑の修後・保守に係る費

用」とある。それによって寄付者には会長名の 礼状、税金控除証明書が送付されている。

今後はこの「広崎基金」は、寄付者の意思に添ったかたちで遭難碑に対して今までかかった様々な費用、そして今後生じるであろう出費に対して維持管理していくとともに毎年本部に会計報告をしていかねばならない。

私もこの兄妹にお礼を伝えるため去る 10 月 18 日、中間市まで出かけてお二人に丁寧にお礼 を申しあげた次第である。

尚、本年の8月2日の「山の安全を祈る集い」はこの遭難から丁度90年となる。この節目に関係者を交えて記念の集会を現地にて催すよう企画したい。

支部会議報告

第5回役員会12月13日(金)大分市西部公民館

- 1. 支部 60 周年記念事業について
- 2. 忘年会登山と忘年会について
- 3. 第7回登山入門教室の実施について
- 4. 来年度本部補助金申請について
- 5. その他
 - ・山のトイレ問題
 - ・九重山遭難慰霊碑の修復維持等に対する 寄付金の取り扱いについて

支部のルームについて開催状況

11月 1日(金) 大分市西部公民館 出席 7名 12月 13日(金) 大分市西部公民館 出席 11名 1月 10日(金) 大分市西部公民館 出席 5名

支部のルーム開催予定

2月7日(金)大分市西部公民館 3月6日(金)大分市西部公民館 4月3日(金)大分市西部公民館

お知らせコーナー

月例山行のご案内

1月月例山行:熊渡山・カラ迫岳

日 時…1月26日(日)

出 発・・・1月26日(日)午前6時30分集合場所・・・大分駅南口(上野の森口)参加申し込み期限・・・1月20日(月)まで担当リーダー・・・阿南寿範

参加申し込み・・・TEL 097-597-7120 (携帯) 080-3187-2003

Email beca5844@oct-net.ne.jp

2 月月例山行:猿駆山

日 時…2月16日(日)

出 発…2月16日(日)午前6時00分 集合場所…大分駅南口(上野の森口) 参加申し込み期限…2月10日(月)まで

担当リーダー・・・宮原 照昭

参加申し込み···TEL 097-537-1389

(携帯) 090-7384-3111

Email teru-miya240619@docomo.ne.jp

3 月月例山行:三国山

日 時…3月15日(日)

出 発…3月15日(日)午前6時00分集合場所…大分駅南口(上野の森口)参加申し込み期限…3月8日(日)まで担当リーダー…井上 高明参加申し込み…TEL 097-536-2728

(携帯) 080-5210-9368

Email i-tmss@oct-net.ne.jp

4月月例山行:ハナグロ山

日 時…4月12日(日)

出 発・・・4月12日(日)午前6時00分集合場所・・・大分駅南口(上野の森口)参加申し込み期限・・・4月6日(月)まで担当リーダー・・・浅野 総一

参加申し込み・・・TEL 097-537-7301

(携帯)080-6408-8000

Email asanos@po.d-b.ne.jp

第36回 全国支部懇談会は 宮崎支部で!

第36回全国支部懇談会は、2020年度は宮崎支部で開催されます。

隣県支部での開催ですので希望者はご遠慮なく申し込んでください。出席者は支部でとりまとめて申し込むことになっていますので、希望者は支部事務局まで申し出てください。

会場及び宿泊 宮崎市青島「ANA ホリデイ・ イン・リゾート宮崎」

期日 2020年5月16日(土)·17日(日) 参加費 20,000円

記念山行 双石山(17日)

記念観光 日南海岸、鵜戸神宮ほか 募集期間 2019年12月~2020年1月末

支部創立 60 周年記念誌 の原稿募集

募集原稿…山行報告、随筆、詩、短歌、俳句、 川柳ほか 山の思い出やエピソードや記録、ほ かいろんな投稿をお待ちしております。

(おおむね 1,000字以内)

編集担当・・・・ 阿南 寿範

〒870-1113

大分市大字中判田 15-55

TFI 097-597-7120

(携帯)080-3187-2003 Email

beca5844@oct-net.ne.jp

支部の記念誌として、皆様の積極的な投稿をお待ちしています。

大分百山の執筆原稿締め切る

支部創立60周年記念で出版予定の、大分百山 (三改訂版)の執筆原稿は昨年11月末を持って 終了しましたが、まだ、未提出の方がおられま す。これから校正等に時間を要しますので、 早々の提出お願い致します。

編集担当・・・浅野 総一

TEL 097-537-7301 (携帯) 080-6408-8000

Email <u>asanos@po. d-b. ne. jp</u>

第6回支部役員会の開催案内

本年度第6回支部役員会を下記の通り開催しますので役員の方はご参集ください。

- 日 時…2月19日(水)18時より
- 場 所…大分市コンパルホール 3 1 1 号室 <議 題>
- 1. 令和2年度事業計画(素案)について
- 2. 支部創立 60 周年記念事業の進捗について
- 3. 大分百山(改訂版)の進捗について
- 4. その他

定期総会の開催予定

2020年(令和2年)度東九州支部定期総会を下記の日程で開催する予定です。後日開催通知の往復はがきを送りますので、皆様出席できるようにあらかじめ予定しておいてください。

日 時 4月18日(土)午後6時より

場所大分市「コンパルホール」

支部報メール(電子版) 受信のお願い

パソコンメール等で支部報の電子版(PDF ファイル)を受信出来る方を募っています。

支部報の印刷経費および発送経費節減のためのご協力のお願いです。メールで受信できる方には印刷した支部報の郵送はいたしませんが、印刷物と同じ内容の支部報をPDFファイルで全紙面カラー版をお送りできます。昨年の定期総会で規約改正があり、電子版受信者には支部年会費が500円減額されました。

応諾できる方は下記のメールアドレスに「支部報電子版受信を応諾します」と明記のうえ、 氏名をはっきり書いて送信してください。応諾者には次回支部報以降、印刷した支部報はお送りせず、メール便で発送いたします。ご協力をよろしくお願いいたします。

応諾メール発信先 jackeikaku@ant. bbiq. jp メールアドレスが変わっていますので、お間違 いにないようにお願いします。

募集

支部創立60周年記念海外 登山隊員

支部創立60周年を記念して、海外登山隊派遣を 企画しています。挑戦してみたいとお思いの方は、 絶好の機会ですので是非応募を検討してみてください。

実施時期…2020年9月~10月 行き先…ピサンピーク(6091m)・ネパール・アンナプルナ 山域

募集開始…9月



ピサンピーク

ピサンピークはマルシャンディ河を隔てて、アンナ プルナ山群の東に聳える6千m級の美しい山です。

新入支部会員紹介

(元年9月以降)

会員

丸井弘美(会員番号 16560)元年 11 月入会 丸井元江(会員番号 16561)元年 11 月入会 境 卓也(会員番号 16557)2 年 1 月入会

準会員

三浦修治(会員番号 A-0269) 元年9月入会 木下恵子(会員番号 A-0299) 2年1月会友 から準会員へ

会友

青木美代子(会友番号 243)元年9月入会

飛高紀子 (会友番号 244) 元年 10 月入会 **平原健史** (会友番号 245) 元年 11 月入会

りで行事主催県が選ばれ、今年は幸運にも大分県が選ばれて大分県で主催行事が行われます。この機に一人でも多くの人が山に親しみをもち山の大切さをわかっていただければ幸いと思います。
(TA)

後 記

- ・2020年 あけましておめでとうございます 今年は、オリンピックの年、しかも地元開催(東京オリンピック)で、大いに盛り上がることでしょう。と同時に、当支部も今年で創立60周年を迎え、10月には記念式典を催す計画であります。現在その準備として、大分百山(三改訂版)の出版準備、記念誌の発行等を計画しているところであります。会員皆様方のご協力がなければ初期の目標を達成することはできません。自分ができることなんでも構いませんので進んで協力しましょう。
- ・「山の日」8月11日は、国民の祝日になって早4年を迎えます。この日に向けて、毎年全国持ち回

公益社団法人日本山岳会東九州支部 東 九 州 支 部 報 第88号

2020年(令和2年)1月25日発行

発行者 加藤英彦 編集者 阿南寿範 印刷所 佐伯印刷株式会社

発行所 事務局

〒874-0820 別府市原町5-14 飯田方

TEL·FAX 0977-21-3437

E - mail amatomoki@ari.bbiq.jp



アルパインツアーは登山・トレッキングの専門旅行会社です。

※各種ツアーカタログをご請求下さい。『世界の山旅』『スイス·ハイキング』『ヨーロッパの山旅』 『カナダの山旅』『北欧の山旅』『ヒマラヤ・トレッキング』『ニュージーランドの山旅』など。

アルパインツアー

検索

福岡営業所

↑ ↑ ↑ホームページをご覧下さい。アルパインツアーで検索。↑ ↑ ↑

TEL: 092-715-1557 e-mail: fukuoka@alpine-tour.com



福岡営業所 〒810-0073 福岡市中央区舞鶴1-2-8(セントラルビル5階) 福 岡/☎092(715)1557 東 京/☎03(3503)1911 大 阪/☎06(6444)3033 名古屋/☎052(581)3211

幌/☎011 (711) 7106 仙 台/☎022 (265) 4611 (転送) ((株) りんゆう観光) 広 島/☎082 (542) 1660 (転送)

HP http://www.alpine-tour.com

